

茨木城出土箴欄間について

はじめに 平成18年5月、大阪府茨木市中心部に所在する茨木遺跡において、織豊期から江戸初期に埋め立てられたと見られる流路から、建具などの建築部材が複数出土した¹⁾。本研究所では、科学研究費補助金（基盤研究A）「遺跡出土の建築部材に関する総合的研究」を進めており、茨木市教育委員会の協力に恵まれ、出土建築部材調査の機会が得られた。そこで、本稿では出土した建築部材のうち、箴欄間について復元をおこない、室町後期から江戸前期の現存建物に用いられている箴欄間と比較した結果を報告する。

箴欄間の概要 箴欄間2点は、図13のように復元できる。一つは幅2196mm×高さ607mmで、欄間框が出土していない。框の幅と柱の太さを考慮すると、柱間約8尺に納まると推定される。組子は、横子が上下段に2本、

中段に3本で構成される。堅子は12mm毎に配され、181本あったものと推定される。組子は雇い釘（木製か竹製）で留められ、堅子は一本置きに留められる。2間半の室境に2枚用いたものであろう。

もう一つは、欄間框が残存し、幅1405mm×高さ382mmで、柱太さを考慮すると、柱間約5尺に納まると推定される。組子は、横子が上下段に2本、中段に3本で構成される。堅子は15mm毎に配され、87本あったものと推定される。雇い釘は、欄間が比較的小さいためか、前述の箴欄間より横子の留め方が疎らである。欄間框は几帳面取りされ、留形三枚接ぎ雇い釘で組み立てられる。欄間の大きさと組子の細さから見て、付書院などに用いた可能性がある。

箴欄間の比較と位置付け 箴欄間は、建築様式で言えば書院造り建物の上段の間などに主に用いられる。表1は書院造りの建物について、欄間に注目して比較したものである²⁾。また、堅子配置の細かさを示す指数として、

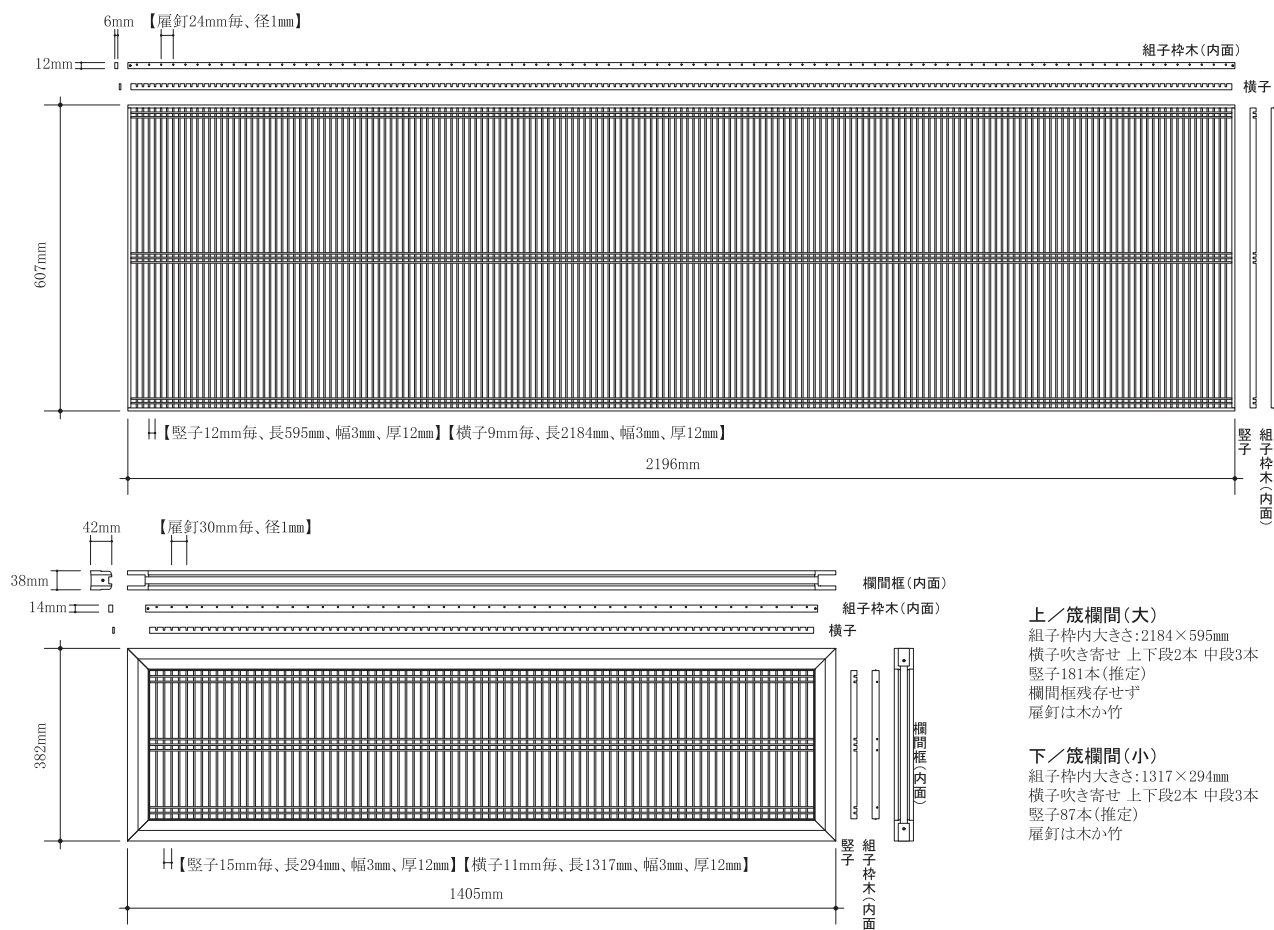


図13 茨木遺跡出土箴欄間 1:15

箴欄間が納まる柱間寸法を、竪子本数で割った数値を入れた。この表を概観すると、室町時代の初期書院造りにおいては竹の節欄間が用いられることが多く、箴欄間を用いる場合でも、高さが低く、竪子配置が疎らな傾向がある。次に織豊期から元和（1615～24）頃の欄間は箴欄間を用いることが多く、高さも高く、竪子も細かく配置される。次の寛永（1624～44）頃は、さらに欄間の高さが増し、横子の本数が増え、箴欄間の最盛期を示す。この時期以後は、彫刻欄間や変わり組子欄間を用い始め、箴欄間は書院造りにおける最上級欄間の地位を失う。

茨木遺跡出土箴欄間（大：幅8尺の例）と類似する箴欄間を持つ建物を挙げると、欄間の大きさの点からは正傳寺本堂（京都・重文）、幅と横子の本数から勧学院客殿（滋賀・国宝）に類似する。また、竪子の配置では、類例中最も細かい圓滿院宸殿（滋賀・重文）が比肩するものの、茨木遺跡出土箴欄間よりも細かい配置例は見あたらず、最も竪子が細かく配置される事例となった。

まとめ 以上の結果、茨木遺跡出土箴欄間は、比較した建造物に並ぶ格式をもった建物に用いられていたと考えられる。茨木遺跡には、一国一城令で元和年間に廃城された茨木城推定地が位置する。箴欄間が出土した流路は、幅や深さ、周辺の地名や地割りから見て茨木城東堀と考えられている。出土箴欄間は、特徴が類似する正傳寺方丈（桃山時代）・勧学院客殿（慶長5年）・圓滿院宸殿（元和5年）の年代から見ても、茨木城の御殿や周辺の寺院建築に用いられていたと見ることが可能である。出土箴欄間は、市街地に覆われて謎の多い茨木城の実態を解明する、貴重な出土建築部材と評価できる。

（黒坂貴裕）

注

- 1）茨木市教育委員会『平成18年度発掘調査概報』2007。
- 2）修理工事報告書においても欄間の記述は少ないため、当初材・後補材の区別はおこなっていない。また、欄間の大きさ、組子の本数は各報告書や書籍写真からの推定値である。建築年代は、文化庁『国宝・重要文化財大全』毎日新聞社、2000より。

表1 箴欄間の類例比較

建物名	建築年代 ²⁾		欄間種別 (横子上段～下段の各本数)	部屋の幅と 箴欄間枚数	柱間／ 箴欄間1枚	欄間高さ (框込み)	竪子	柱間(mm) ÷ 竪子数
茨木遺跡出土(大)	／	／	箴欄間(2・3・2)	(2.5間／2枚)	(8尺1寸前後)	60.7cm(框無)	181本	13.6
龍吟庵方丈	嘉慶元頃	(1387頃)	箴欄間(2・3・2)	3間／3枚	6尺8寸	60cm前後	53本	38.8
妙喜庵書院	室町後期	—	竹の節欄間	—	—	—	—	—
靈雲院書院	室町後期	—	竹の節欄間	—	—	—	—	—
聚光院本堂	永祿年間	(1566頃)	箴欄間(1・3・1)	3間／2枚	9尺8寸	63cm前後	61本	48.7
金地院方丈	桃山時代	—	箴欄間(1・3・1)	3間／2枚	(9尺7寸5分)	80cm前後	117本	(25.2)
本願寺飛雲閣	桃山時代	—	菱形組子欄間	—	—	—	—	—
正傳寺本堂	桃山時代	—	箴欄間(1・3・1)	2.5間／2枚	8尺1寸3分	70cm前後	99本	24.8
西教寺客殿	慶長2年	(1597)	箴欄間(1・3・1)	3間／3枚	(6尺5寸)	100cm前後	77本	(25.5)
三宝院表書院	慶長3年	(1598)	箴欄間(1・2・1)	3間／2枚	9尺7寸5分	70cm前後	119本	24.8
三宝院宸殿	慶長3年	(1598)	箴欄間(1・3・1)	2.5間／2枚	8尺1寸1分	60cm前後	107本	22.9
勧学院客殿	慶長5年	(1600)	箴欄間(2・3・2)	2.5間／2枚	8尺1寸3分	90cm前後	121本	20.3
光浄院客殿	慶長6年	(1601)	箴欄間(2・3・2)	3間／2枚	9尺7寸8分	95cm前後	151本	19.6
観智院客殿	慶長10年	(1605)	竹の節欄間	—	—	—	—	—
瑞巖寺本堂	慶長14年	(1609)	箴欄間(1・3・1)	3間／2枚	(7尺)	100cm前後	177本	(17.9)
(名古屋城表書院)	慶長14年	(1609)	箴欄間(2・1・3・1・2)	3間／2枚	不明	不明	102本	不明
圓滿院宸殿	元和5年	(1619)	箴欄間(2・3・2)	3間／2枚	9尺7寸5分	95cm前後	191本	15.4
妙法院大書院	元和5年	(1619)	箴欄間(2・3・2)	3間／2枚	9尺7寸5分	100cm前後	114本	25.9
二条城二の丸御殿	慶長・寛永	—	箴欄間(2・2・3・2・2)、彫刻	3.5間／2枚	11尺3寸7分	136cm前後	124本	27.7
大通寺広間	江戸前期	—	箴欄間(1・3・1)	3間／3枚	6尺5寸	80cm前後	64本	30.7
大通寺蘭亭	江戸前期	—	箴欄間(1・3・1)、上下透彫	2.5間／2枚	8尺1寸0分	68cm前後	133本	18.4
聖衆來迎寺客殿	寛永16年	(1639)	箴欄間(1・2・3・2・1)	3間／2枚	9尺7寸5分	110cm前後	117本	25.2
知恩院大方丈	寛永18年	(1641)	箴欄間(2・3・3・2)	4.5間／3枚	(9尺7寸5分)	136cm前後	115本	(25.6)
知恩院小方丈	寛永18年	(1641)	箴欄間(2・3・3・2)	3.5間／2枚	(11尺3寸7分)	133cm前後	169本	(20.3)
小笠原家住宅	寛永年間	—	箴欄間(2・2・3・2・2)	2間／2枚	6尺3寸1分	110cm前後	不明	不明
曼殊院小書院	明暦2年	(1656)	模様組子欄間	—	—	—	—	—
本願寺黒書院	明暦3年	(1657)	模様組子欄間	—	—	—	—	—